

伊能忠敬

天を測り

地を量る



その視線の先に見据えていたことは
何であつたのだろうか。
江戸時代、ここ佐原で人間を練り上げ、
50歳で学問のため江戸へ。

日本全国を測量して歩き、
初めて実測で日本地図をつくりあげました。
地上で距離と角度を量り、天体で角度を測る。
膨大な作業を丹念に繰り返す。
誰もやったことのないことをやり遂げる情熱が、
時代を超越した偉業となりました。
没後200年の今、
忠敬を知り、忠敬に学びます。



伊能忠敬記念館近くで御用の旗がたなびく



小野川に架かる櫓橋。初代は江戸時代に架けられた



忠敬橋には象限儀のモチーフがある

Astronomical observations and accurate surveying of the earth.

After making great efforts as an individual and attaining great success as a businessman in Sawara, Tadataka went up to Edo to study Western sciences. Past 55 of age, he began to walk together with his followers in order to survey all through Japan including a lot of islands and finally completed the very first and accurate map of Japan. His great achievement was far ahead of the times, and the Ino Map was the authorized map of Japan for a long time. As 2018 marks the 200th anniversary of his death, why not gain a deeper understanding of the man and his work?

忠敬の生涯を ひもとく

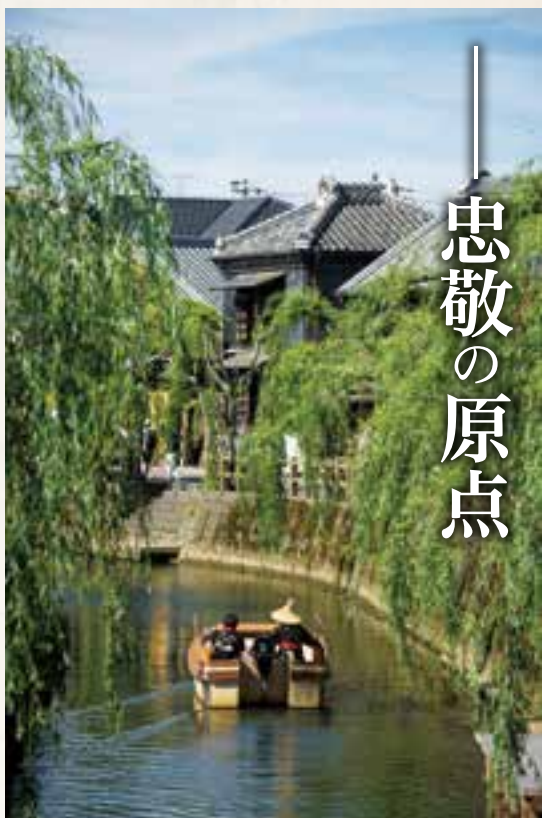
天とは天体であり、暦であり、時である。
佐原の商人として活躍しつつ進むべき道を見出していった前半生。
江戸での勉学と、困難を乗り越えながらも全国測量を行って伊能図をつくった後半生。
この足跡をたどります。



Sky A glimpse into Tadataka's life

The first half of his life was completed as a successful merchant in Sawara having a dream of strong ambition in the future and the second half as a practical cartographic surveyor who led his team in order to compile the Ino Maps. Let us retrace his footsteps.

忠敬の原点



学問の道から経営者へ

忠敬は上総国山辺郡小関村（現在の九十九里町）に生まれました。幼い頃の忠敬は謎が多いものの、僧侶や医師のもとで修行しながら数学や医学の素養を身に着けたと伝えられています。

こうした学問の能力が認められたのか、忠敬は17歳の時、佐原村の伊能家に婿養子に迎えられることになった。伊能家は代々、村の名主（現在の村長のような役目）を務める名家で、多くの奉公人を抱えて酒造りや米の売買、金融業などを営む規模の大きな商家でした。忠敬はその商才を発揮して、伊能家をさらに大きく成長させることに成功します。一説には、その資産は約3万両（現在の45億円程度）に

のぼったと言われます。忠敬が経営者として培った、人を見る目や人を束ねる手腕、そして巨額の資産は、その後の全国測量に直接活かされることになります。

商才を活かして 地域に貢献

忠敬の優れた商才は、村や地域のためにも活かされました。それがもつとも発揮されたのは、天明の大飢饉の時です。

この時忠敬は、被害が大きくなる前に関西方面から安価な米を大量に買い付け、江戸で高値で売り払って大きな利益を得ます。その一方で、地元では同じ米を安い値段で売り、また、困窮している人には無償で分け与えています。さらに、江戸幕府が実施した利根川の堤防修築工事を自ら請け負って、困窮する人々に就業機会を提供するとともに、工事費用を浮かせて得た残金で村の財政基金を造成するなどしています。

忠敬は、自らの商才を自家の利益のためだけでなく、公共的な事業のためにも活かすことのできる人でした。

変わらぬ地元への想い

「名譽に関わらず困窮している人の命は救うべし」という信念は、

忠敬の生涯を通じたものでした。1813年の夏、九州での測量旅行を続ける忠敬のもとに、利根川一帯が大洪水で甚大な被害を受けたとの一報が届きます。これに心を痛めた忠敬は、「困窮している人がいれば、佐原村はもちろん近隣の村々の人たちまでも、自分の所持金を費やして救いたい」と述べています。

故郷を離れ全国測量の旅路にあっても、地元のために力を尽くそうという想いを忠敬は変わらずに持ち続けていました。

1. 悠々と流れる利根川
2. 伊能家の菩提寺 観福寺
3. 伊能忠敬旧宅



50歳からの挑戦



地球を知りたい

隠居して家業を息子に譲った忠敬は、50歳で江戸に移住し、天文学者で江戸幕府の役人でもあった高橋至時^{よしとき}に弟子入りをして、当時最先端の天文学を学び始めます。そこで忠敬は、当時の天文学では日食や月食がいつ起こるのか正確に予測できないという問題につき当たります。この問題を解決するには、緯

度1度の長さを測定し、地球の大きさを確定することが必要でした。同じ頃、蝦夷地^{えぞち}（現在の北海道）近海にロシア船がたびたび来航するようになり、幕府は国防のために正確な地図を作ることが不可欠と考えていました。そこで至時は、蝦夷地までの測量と地図作りを幕府に願います。地図作りをしな

苦難の道のり

忠敬の全国測量は全10回、55歳から71歳までの足掛け17年間、歩いた距離は地球一周分、約4万kmにのぼります。そして、完了に至るまでにはさまざまな苦難がありました。

険しい岩場や切り立った崖が続く北海道の襟裳岬^{えりも}の測量では、沿岸の測量を諦めて山道を進みますが、途中で日が暮れて遭難しかけました。忠敬はこの時のことを「終日難所を歩き、草鞋もことごとく切れ破れ、素足になつてしまひ困つていたところに、迎えの提灯^{ちようちん}が見えたので、まさに地獄に仏とはこのことだった」と振り返っています。

忠敬を支えたもの

国民的な偉業へ

忠敬は約4年間かけて東日本の測量を行い、緯度1度の正確な長さを算定することに成功します。また、出来上がった地図も11代將軍徳川家斉^{いえなり}をはじめ幕府首脳から高く評価されます。その結果、忠敬は功績を認められ、幕府の役人に取り立てられました。

その後の西日本の測量は正式な幕府直轄事業となり、規模、質ともに大きく変貌しました。例えば、瀬戸内海に浮かぶ500を超え

墓は先生の隣に

忠敬の全国測量で最大の支援者となつたのは、先生である高橋至時です。忠敬より19歳も年下である至時ですが、良き理解者として

陰日向なく忠敬を支えました。測量の途中、測量隊と現地の役人の間でトラブルが生じ、役人たちが幕府に訴えるという事件が起つた際も、至時は終始、忠敬を弁護するとともに、忠敬にも手紙を送つて、「天下における天文学の盛衰は、まさにあなたの一身にかつてい

夢をあきらめない

忠敬には測量・地図作りに対する強い使命感があり、その原点は幼少期にありました。忠敬は、晩年に自らの生涯を振り返って、次のように述べています。「私は、幼いころから高名出世を望んでいたが、親の命令で伊能家へ養子に入る

1. 測量に出発する前には必ず参拝した富岡八幡宮
2. 現在の函館市
3. 幕府から交付された蝦夷地測量試みの御沙汰書
4. 深川黒江町～浅草司天台実測図
5. 源空寺 高橋至時の墓
6. 測量日記・忠敬先生日記
7. 伊能隊の測量風景（浦島測量之図・呉市入船山記念館保管）



奈良漬も食べられない

約17年間も全国を歩いた忠敬は、とても健康で頑丈な身体を持ち主だったと思われがちです。しかし実際は、いくつもの持病を抱え、測量の旅先で寝込んでしまうこともあり



シーボルト事件

ドイツ人シーボルトが伊能図の写しを、母国へ持ち帰ろうとしたことが発覚して事件となりました。

江戸後期、日本地図は国外に持ち出すことを禁じられていました。親交があり、伊能図を渡した天文方の高橋景保(至時の子)は処罰され、シーボルトは国外追放となりました。しかし、密かに作った伊能図の写しを持ち出して帰国。初めて海外に日本の正確な姿を伝えました。

1832年には「Nippon」を刊行。ヨーロッパで日本文化を紹介するなど日本に大きく貢献しました。



伊能図の世界にふれる

地とは地球であり、大地であり、地図である。
伊能図の驚くべき正確さとスケールの大きさ、
芸術的な美しさ。
その後の世界と日本へ与えた影響。
この魅力を堪能します。



Earth Exploration of the world of the Ino-zu (Ino Maps)

Let us appreciate the striking accuracy and aesthetic beauty of the Ino Maps, drawn on an extremely large scale, and their influence on the later history of Japan and the world.

ココがすごい！

香取の偉人 伊能忠敬

語りつくせない忠敬の偉業。その中でも「すごい！」と言えるポイントを紹介。



50歳を過ぎてから 日本全国を測量！

佐原で家業のほか村の名主や村方後見として活躍したのち隠居。50歳で江戸に出て学問を修め、なんと55歳から全国測量を始めました。



東京国立博物館所蔵
Image:TNM Image Archives

初めて実測で 日本地図を作った！

日本全国を測量してまわり、初めて実測による日本地図を完成させました。現在の地図と比べると、精度の高さに驚かされます。

数千万円の測量費用を 自分で支払う！

最初の測量費用は現在のお金で数千万円。当初幕府が支給してくれたお金は大変少なく、かかった費用の多くを忠敬が用意しました。

地球1周分を歩く！

日本全国の測量は全10回、17年間に及びました。歩いた距離は地球一周とほぼ同じ約4万kmとなりました。



地球の大きさを測る！

地球の大きさを知るためには子午線(緯度)1度の距離を測ることが必要でした。全国測量で子午線1度の距離を28.2里と測定。地球の大きさを求めました。



伊能図の完成

足掛け17年に及ぶ全国測量が完了した後、日本全図の製作に取り掛かった忠敬ですが、1818年、地図の完成をみることなく73歳で亡くなります。しかし、忠敬の死は正式には公表されないまま、残された地図は3年後に忠敬の弟子たちの手によって完成され、「伊能忠敬」の名前で幕府に提出されます。そこで提出された日本地図が「大日本沿海輿地全図」と名付けられました。

忠敬が作った地図、通称「伊能図」は、縮尺の異なる大図・中図・小図の3種類のほか、名勝地を絵画のように描いた特別図など、さまざまなバリエーションがあります。いずれの地図も、実際に測量して作られたので、高い正確性を持つとともに、地形描写には日本画の手法が用いられて、芸術的な美しさも兼ね備えています。

伊能図は江戸時代には一般に公開されることはほとんどありませんでした。しかし、幕末から明治にかけて、伊能図を基にした近代的な地図がさまざまなところで作られ、大正時代まで使用されたものもありました。

幕末から明治にかけて、伊能図を基にした近代的な地図がさまざまなところで作られ、大正時代まで使用されたものもありました。

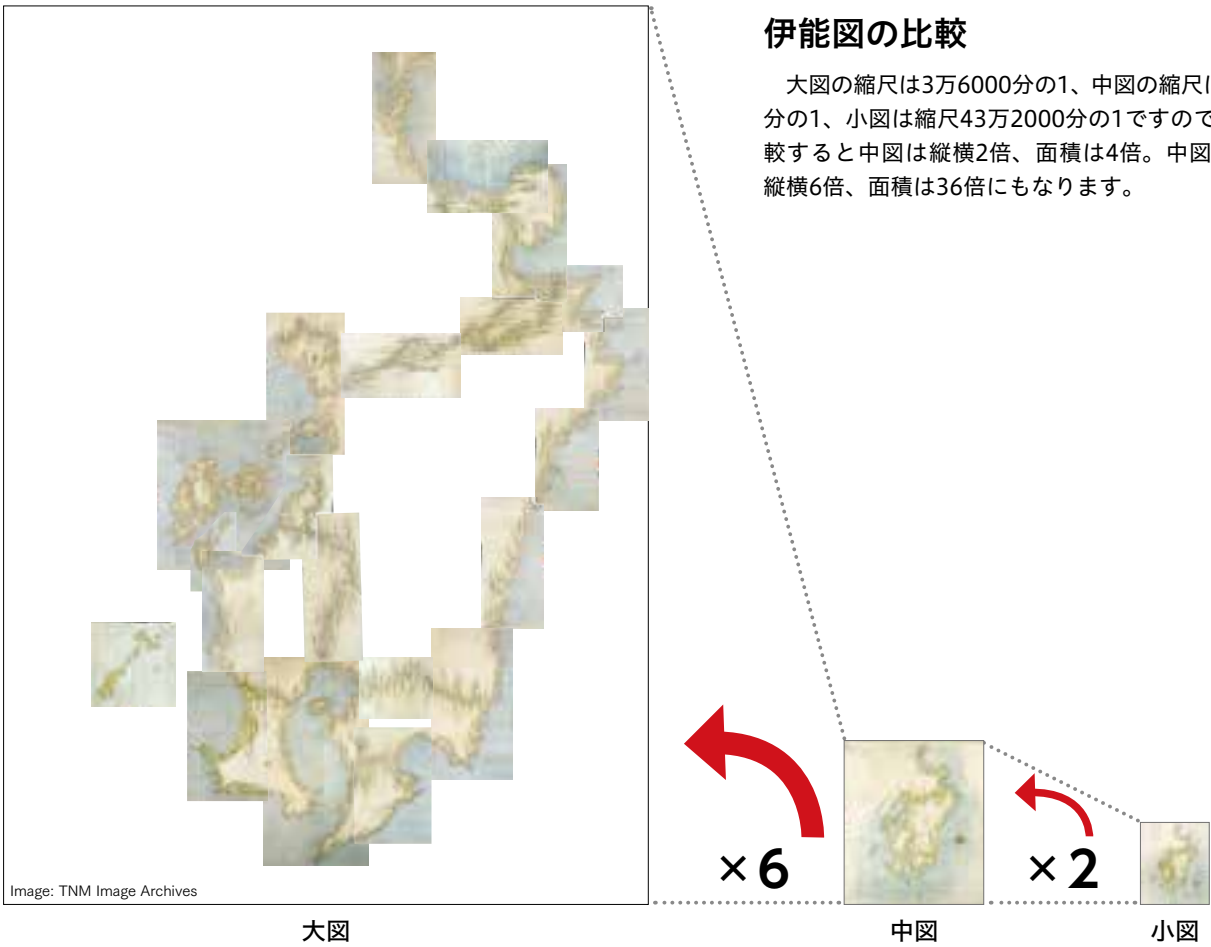
伊能測量隊の行程

	測量地	伊能忠敬の年齢	日程
第1次測量	蝦夷地	55	寛政12年(1800)閏4月19日～10月21日
第2次測量	本州東岸	56	享和元年(1801)4月2日～12月7日
第3次測量	本州西岸	57	享和2年(1802)6月11日～10月23日
第4次測量	東海・北陸	58	享和3年(1803)2月25日～10月7日
第5次測量	畿内・中国	60～61	文化2年(1805)2月25日～文化3年11月15日
第6次測量	四国・大和	63～64	文化5年(1808)1月25日～文化6年1月18日
第7次測量	九州	64～66	文化6年(1809)8月27日～文化8年5月9日
第8次測量	九州	66～69	文化8年(1811)11月25日～文化11年5月23日
第9次測量	伊豆七島	70(測量不参加)	文化12年(1815)4月27日～文化13年4月12日
第10次測量	江戸	70～71	文化12年2月3日～19日、文化13年(1816)8月8日～10月23日

2010	2001	1923	1873	1828	1821	1818	1816	1804	1800	1795	1794	1781	1762	1745	西暦
						73	71	59	55	50	49	36	17	0	年齢
国宝に指定	「伊能忠敬関係資料2345点」 アメリカ議会図書館で伊能大図207枚発見	関東大震災、大日本沿海輿地全図副本焼失	皇居炎上、大日本沿海輿地全図正本焼失	シーボルト事件	大日本沿海輿地全図が完成	忠敬没	全国測量を終える	出 日本東半部沿海地図を幕府に提出	全国測量を始める	江戸深川黒江町に住み高橋至時の弟子となる	家督を長男景敬に譲り隠居	佐原村本宿組名主となる	佐原伊能家の婿養子となりミチと結婚。名を忠敬とする	現在の九十九里町小関に生まれる。幼名三治郎	主なきこと

伊能図の比較

大図の縮尺は3万6000分の1、中図の縮尺は21万6000分の1、小図は縮尺43万2000分の1ですので、小図と比較すると中図は縦横2倍、面積は4倍。中図と大図では縦横6倍、面積は36倍にもなります。



コンパスローズ

各地図の接合部分に描かれていて、複数の地図からできる伊能図を正確に貼り合わせます。



大日本沿海輿地全図(中図)

大日本沿海輿地全図は、大図が全部で214枚、中図が8枚、小図が3枚で構成されています。
東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives

測量器具を探る

忠敬の測量は地上測量と天体観測を組み合わせて実施したことに特徴がありました。

地上の測量では、地形を知るために、海岸線や街道に沿って目印となる梵天をいくつも立てて、その間の直線距離と角度（方位）を繰り返してはかっていくことが基本となりました。しかし、こうした方法では誤差が積み重なっていき

ます。そこで、誤差が生じていなかを確認するため、基準となる山をいくつも決めて、各地からそ

の山の方位（角度）をはかるなどしています。

そして誤差を補正するうえで、もつとも役立ったのが、天体観測によって各地の緯度や経度を測定する方法です。緯度の測定には、北極星などの星の高度をはかるた

めに象限儀（中）を使いました。経度の測定には、日食や月食、木星とその衛星の動きなどを利用しました。忠敬が地図の精度を飛躍的に向上させることができた最大の要因は、緯度や経度を測定して

歩測

距離をはかる

忠敬の歩幅は約70cmと言われている。一定の歩幅で歩き、その歩数で距離を計算しました。ただ、主として鉄鎖や間縄が使用されました。

鉄鎖



間縄



象限儀(中)

星の角度をはかる

北極星など星の角度をはかる天体観測の器具です。観測した結果から測量地点の緯度を計算。全国測量約3,700日の期間中、1,000カ所以上の場所で行いました。伊能図にある星印は天体観測を行った場所です。



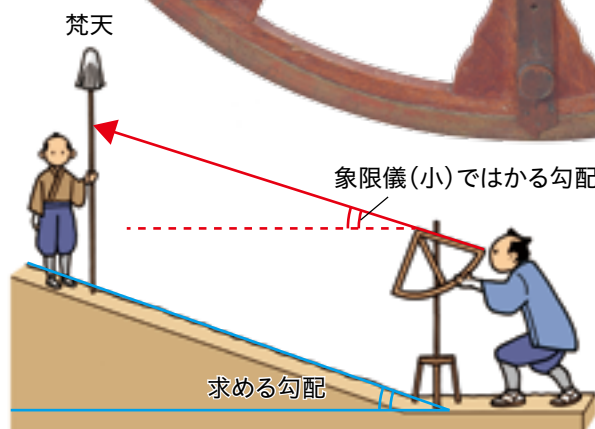
象限儀(小)

坂道の角度をはかる

坂道の勾配の角度をはかる器具です。坂道をそのままはかると、距離が長くなります。そこで坂道の角度をはかり、地図に必要な水平距離を計算しました。



象限儀(小)ではかる勾配



求める勾配

量程車

距離をはかる

動かした距離をはかる器具です。引いて歩くと、下についている車輪と連動して歯車が回り、測定した距離を数字で表示します。



わんか羅鍼

方角をはかる

道路の曲がる角度などをはかる器具です。杖の先に羅針盤があり、角度1度まで読むことができます。方位磁石を使用しているため、測量する人は刀の代わりに木の刀を差しました。

方角をはかる



梵天



伊能忠敬記念館

小野川を挟んだ旧宅の対岸に1998年に開館しました。国宝に指定された伊能図や測量器具、書状などを展示。豊富な資料で忠敬の人生を年代順に追い、忠敬の偉業と伊能図の魅力を余すことなく紹介します。



国宝指定 伊能忠敬関係資料2,345点(平成22年)



半円方位盤

遠くの山や島の方位をはかるための器具です。方位磁石や角度をはかる目盛がついています。



観星鏡

星や遠くの山を観測するための望遠鏡です。



測食定分儀

日食や月食を観測するための器具です。観星鏡に取り付けて使用します。

垂揺球儀

振り子が振れた数を記録する器具です。太陽が一日かけて同じ位置になるまでの間に、振り子が何万回振れたかをはかります。経度測量に用いました。



世界から、 斯界から

伊能忠敬没後200年に先立ち、世界および日本の伊能忠敬関係者や研究者から顕彰の辞を寄せていただきました。伊能忠敬の偉大さ、伊能図の価値の高さに改めて驚嘆します。

伊能忠敬研究会理事 名誉代表

渡辺 一郎



「デジタル伊能図」 共同企画編集・データ制作 地図製作会社役員

猪原 紘太



忠敬と伊能図について情報発信を始めてから二十年を越えた。香取市との御縁は1995年フランスの伊能中図の中央公民館招聘に始まる。これが大成で現在の盛況に至った。

ついで江戸東京博に伊能忠敬展を提案。名誉館長児玉幸多先生の一言で1998年開催と内定。展示の目玉に心掛け英国小図借受けを申し込んでいたが、共催の朝日新聞が引き継ぎ実現した。引続き伊能研究会と日本ウオーキング協会、朝日新聞社共催の伊能ウオークを催行。ひと山越えたなと思つて、家内と旅行をしていてアメリカ大図207枚を発見する。アメリカ大図利用の床展示を催行したが、現在香取市が各地に貸出し展を始めている。ごく最近では国立公文書館で北海道の針突本の小図を発見。この図から見るかぎり、北海道図では忠敬の第一次測量データは使われず、間宮のデータが利用されたと推測される。未発見の伊能図はまだまだ日本内外に多数残っている、というのが実感である。

伊能家8代目当主

伊能 淳



忠敬の遺品や功績は曾祖母の孝が、住んでいる旧宅で来訪者に説明していました。祖父康之助が旧宅と遺品を佐原市に寄付して初代の記念館ができ、残っていた私物を整理した時のことを覚えています。私も定年となりこれからを考えますが、不肖の子孫はさておき、地域に貢献し、隠居してから偉業を成した忠敬が今も人に伝え続けるものがあるのなら幸いです。



完全復元伊能図フロア展

シーボルト末裔

ドイツ

コンスタンティン・フォン・
ブランデンシュタイン
ツェッペリン



Die Hokkaido-Karte hat Siebold selbst als das wichtigste Ergebnis seiner Japanforschungen bezeichnet. Daher ist die Bedeutung von Ino Tadataka, der wichtige Informationen für sie geliefert hat, gar nicht hoch genug einzuschätzen! Im Ergebnis wurde durch das Wirken der beiden Männer erstmals in der Welt eine präzise Karte des Inselreichs von Japan bekannt, die in vielen Ländern und für viele Zwecke, insbesondere für die Seefahrt, sehnstlich erwartet wurde.

元国土地理院院長

星 由尚



伊能忠敬は、現代の測量技術から見ると極めて初歩的ですが、全国を科学的に測量して巡り、我が国初の統一的・系統的な実測による日本地図（伊能図）を作成しました。伊能図は近代地図の萌芽とも言え、明治政府は、近代国家地図の整備に活用し、約1世紀の長きにわたり、伊能図はその実用的価値を保ったのです。そして、現代の我々にとって、伊能図は、江戸後期の国土を実測して表現した地図として、過去の国土の状況を知るための重要な手掛かりともなっています。



国土地理院

木工職人

比嘉 康夫

先日伊能忠敬が測量に使用した中象限儀のレプリカ製作の依頼をいただきました。木部は私が製作しましたが、目盛は金属製で精密さが必要なため航空宇宙関連に携わる工場に発注しました。実物より簡易な目盛としましたが、製作は容易ではありませんでした。現代の機械でも製作が難しい目盛を、当時の職人は手作業で製作しています。精緻な仕事を通して職人の技術は確実に向上したことと思われ、伊能忠敬の測量が職人を育てた一面も大きかったのではないかと推測されます。



製作した中象限儀のレプリカ



フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト



Kinzigal_Burg-Brandenstein©KonradZerbe

ブランデンシュタイン城

日本北方の地図、すなわち北海道の地図は、シーボルトが彼の日本研究の中で個人的に一番重要な成果であった、と高く評価しておりました。そのため一番貴重な情報をもたらした伊能忠敬の重要さは、いくら高く評価してもし足り無い程です。このふたりの先人のお陰で、さまざまな国々の多様な目的のため、殊に航海上切望されていた多島国日本の非常に正確な地図が、初めて世界の知るところとなったことは大変感慨深いことです。

米国議会図書館

地理・地図部司書

アメリカ

ミーンズ 節子



米国議会図書館地理・地図部は、日本陸軍の模写した伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」（大図）全214枚のうち207枚を収蔵し、原本が失われた今日、最大のコレクションです。200年前の伊能の測量技術は当時の日本の最高水準で、のちに英国船に添乗した幕府役人所持の伊能小図を高く評価した英国海軍は、これを基に海図第2347号（1865年）を作製しました。伊能の技術と努力が世界に通じたことを示すこの地図（海図）は、当部の主要コレクションの一つです。



伊能小図を基に英国海軍が作成した海図2347号
(米国議会図書館地理地図部所蔵)

From the world, from academia

These are complimentary words from those concerned with Ino Tadataka, and from researchers of the man and his work, both in Japan and abroad.

全国に忠敬の足跡を訪ねて……

日本を17年かけて測量した忠敬。今なお、その功績は全国で語り継がれ顕彰されています。北海道から九州まで―忠敬ゆかりの地を訪ねます。

ゆかりの地から

⑫伊能忠敬笹山嶺探索の会

会長 **加賀尾 宏一**（兵庫県篠山市）

平成22年10月に開催された地域学講座「伊能忠敬が測量した丹波の道」―篠山の史実（第7・第8次測量）―をきっかけに、丹波国多紀郡笹山嶺の足跡探しを始めました。第8次測量の帰路、笹山嶺に立ち寄った街道は62kmに及び、その足跡を伝えるべく「伊能忠敬笹山嶺測量の道」と刻んだ標柱を、今も残る歴史街道筋の要所ごとに12基設置しました。この標柱が郷土の歴史を後世に伝えてくれることでしょう。



標柱除幕式（篠山市西岡屋）



⑭ミュゼ灘屋

愛媛県伊予市since1808

測量隊が大雨のなか灘町に着き投宿した本陣・宮内小三郎家です。書院造りの「伊能の間」には、16の家紋をあしらった格子欄間などが往時のまま残されています。



⑮忠敬測量200年記念碑

福岡県北九州市since2001

忠敬の九州測量出発の地である旧小倉城下・常盤橋付近（長崎街道の起点）に、忠敬測量200年を記念して、伊能忠敬小倉顕彰会によって建立されました。



⑪池田栄齋宅跡

石川県鳳珠郡穴水町since2012

忠敬が能登半島の測量時に宿泊した川嶋村の庄屋・池田栄齋の自宅跡です。穴水町まちなか再生協議会によって、記念案内板が作製されました。



⑬箱田良助誕生地記念碑

広島県福山市神辺since2001

忠敬の弟子として測量隊に参加した箱田良助の誕生地です。良助は、幕末に活躍した榎本武揚の実父です。

⑦富岡八幡宮・銅像

東京都江東区since2001

1800年6月11日（旧暦 閏4月19日）の早朝に富岡八幡宮に参詣して蝦夷地測量の旅に出かけました。以後、第8回全国測量までは必ず参詣して出発しました。伊能測量開始200年を記念して銅像が建立されました。

ゆかりの地から

①北海道福島町

町長 **鳴海 清春**

北海道最南端に位置する福島町は、伊能忠敬が寛政12（1800）年5月（旧暦）に、蝦夷地測量のため北海道に初上陸した地であります。福島町の吉岡に上陸後、町内に滞在し、測量を開始して函館へと向かっております。これを記念して、没後200年となる平成30年3月には、上陸した吉岡に忠敬の測量姿の銅像を配置した「伊能忠敬北海道測量開始記念公園」が完成します。香取市の皆さんもぜひ北海道福島町にお越しください。



③星座石

岩手県釜石市since1814

1801年釜石市唐丹を測量し、地元の葛西昌丞が記念して星座石と測量の碑を建てました。



④間宮林蔵記念館・生家

茨城県つくばみらい市since1993

忠敬と間宮は師弟関係にありました。伊能図には間宮の蝦夷地測量の成果が反映されています。



⑩うみのホテル中田屋

静岡県熱海市since2015

測量隊が、200年前に熱海伊豆山の温泉宿「中田屋喜八」（現・うみのホテル中田屋）に宿泊したことを記念した標柱です。



⑨源空寺・墓

東京都台東区東上野since1818

遺言により、師高橋至時の隣に葬られました。墓碑には佐藤一斎による忠敬の生涯が刻まれています。



⑧伊能忠敬測地遺功表

東京都港区芝公園since1965

1889年東京地学協会がその功績を顕彰して遺功表を建立。第二次大戦中に失われましたが再建されました。



⑥伊能忠敬記念公園・銅像

千葉県九十九里町since1995

忠敬生誕250周年を記念して、出生地の九十九里町小関に記念公園がつけられました。

ゆかりの地から

⑰塚崎・唐津往還を歩く会

馬場 良平（佐賀県武雄市）

私たちの歩く会では伊能忠敬の肥前国測量200年の節目に、佐賀県内で伊能忠敬測量隊の足跡をたどる「伊能ウオーク」を実施してきました。また、「完全復元伊能図全国巡回フロア展」を契機に、唐津市内8地区で「伊能ウオーク」を実施。正確な地図を残した伊能忠敬測量隊の功績と200年前と変わらぬ姿で息づく郷土を見直す機会になりました。今後も「伊能ウオーク」を通して、記憶を繋げてまいります。



伊能忠敬測量隊が肥前国入りした筑前国との国境・包石にて



⑯松浦史料博物館

長崎県平戸市since1955

平戸藩主松浦家に伝来する歴史資料を展示する博物館です。館内には松浦家に献上された伊能図の現物も展示されています。



⑱友好都市 鹿島市

佐賀県鹿島市since2016

忠敬の鹿島市測量200年を縁として交流を始め、2016年友好都市協定を締結。伊能忠敬翁没後200年記念事業の一環として伊能大図パネル展が開催されました。



⑩伊能忠敬先生絶賛の地（番所鼻自然公園）

鹿児島県南さつま市since1956

忠敬が「天下の絶景」と絶賛した地で、開聞岳の美しい姿が眺望できます。総理大臣鳩山一郎（当時）の書による「伊能忠敬先生絶賛の地」と記された石碑が建立されています。

忠敬が歩いた足跡を訪ねてみよう！

伊能でGo

伊能忠敬測量隊の足跡をたどるスマホを使ったスタンプラリー！

アプリをダウンロードしてお楽しみください。

【伊能忠敬e史料館】



App Store



Google Play



Let us retrace Tadataka's footsteps throughout Japan

Exploring places related to Tadataka, from Hokkaido to Kyushu.

香取で巡る忠敬を巡る



伊能忠敬銅像(佐原公園)
日本近代彫刻の先駆者大熊氏広氏によるもの。有志により大正8年に建立。



観福寺
伊能家の菩提寺で、毎年5月17日の命日には忠敬を偲び墓前祭が行われます。



つまようじ 爪楊枝アート
佐原高校が平成27年の文化祭で制作。現在は伊能忠敬記念館で展示。



しょうげん ぎ 象限儀
市内には象限儀のオブジェがいくつもあります。写真は伊能忠敬記念館のもの。

ARで巡る 市内ゆかりの地

スマホを使って動画が楽しめます。アプリをダウンロードしてこのページにかざしてください。
※詳しくは市ホームページへ

ココアR2 iOS・Android対応



伊能忠敬記念館学芸員の解説に親子で聞き入る

スケールの大きさを体感できる 伊能大図フロア展

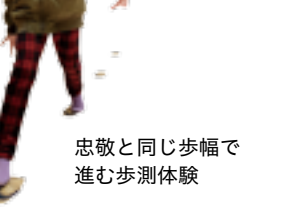
フロアいっぱいに広げた伊能大図原寸大パネルの上を、実際に歩いて体験できます。大人も子どもも伊能大図のスケールの大きさと地図の精確さに圧倒されました。香取市民文化祭月間特別事業として平成28年度はいぶき館で開催。



会場スペースの関係で東日本のみの展示となった



パネル展示で詳しく紹介。フムフム



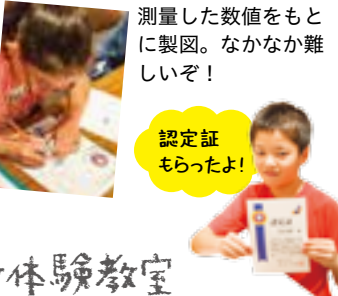
忠敬と同じ歩幅で進む歩測体験



方位盤で測定



巻き尺で距離を測定



認定証もらったよ!

夏休み子ども向け体験教室 忠敬の地図作りにプチ・チャレ!

毎年夏休みは、学芸員と一緒に忠敬の測量方法や地図の作り方を体験するワークショップが、伊能忠敬記念館で行われています。歩幅での測量方法や、梵天や方位盤など測量器具の使い方を教わり、実際に測量して地図を作製。忠敬は17年間、子どもたちは1時間かけて完成させました。



ワンカラシンが動くんだって

伊能忠敬に触れる 佐原公園 銅像清掃

普段見上げている忠敬さんに高所作業車で近づく、子どもたちは大興奮。清掃を通して郷土の偉人に触れる取り組みです。毎年、伊能忠敬大河ドラマ化推進協議会と佐原小学校が行っています。



水郷天文クラブが協力

八都小学校で開催 天体観望会

子どもたちは校庭に並ぶ望遠鏡に興味津々。真剣な眼差しで天体を観測しました。この会は香取・佐原ユネスコ協会が天文観測に造詣の深かった忠敬にちなみ開催しています。



地球ひろばでは解説員が質問に答えてくれる



楽しみながら学べる



子どもたちも楽しめる特別展



日本列島空中散歩マップ

測量の日! 国土地理院バスツアー

毎年、佐原青年会議所が開催し、6月3日の「測量の日」にちなんだ特別展を見学します。国土地理院「地図と測量の科学館」には「伊能図」「御用旗」「象限儀」という市民にはなじみ深い展示も常設されており、ここでも忠敬の偉大な功績を感じることができます。

ここにも忠敬の功績が



伊能図で香取市を探す



これを使って日本全国を測量したんだ



8枚のパネルを組み合わせて伊能図を作る

小学校で郷土の偉人に学ぶ 出前授業

佐原小学校は、毎年6月の「忠敬祭」で、体験しながら忠敬の功績を学ぶ授業を実施。平成29年度は小見川中央小学校でも開催し、伊能忠敬記念館学芸員によるワークショップで測量、歩測などを行います。



忠敬さんは歩幅が広い!

Children born in Katori will be future 'Chuhei-san' (the nickname for Tadataka).
Tadataka's spirit is inherited by the children of Katori.

忠敬を育んだまち香取。二百年の時空を超えて忠敬の精神が、このまちの子どもたちに受け継がれています。

香取で生まれ、未来の忠敬さん